

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが  
**住んでよかった**  
と思える川西市に...

# たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



# 私たちの宝物・市立川西病院

## 「閉鎖は困る」「街が壊れる」「住民不在で一方的すぎる」



なぜ市民に説明しないのか?!

なぜ市民の声を聴いてくれないのか?!

一刻を争う救急車で運ばれる病院が遠くなるのは困る!

ここに病院があることがとても心丈夫!

なくさないで!

たくさんの方が詰めかけた「出前講座」

## 「病院存続を」6月議会で要求

川西病院の閉鎖が突然、5月1日付新聞で報道されて以降、市民から「つぶさないで」の声が上がっています。12日から始まる6月議会・一般質問で私(黒田)は、存続を求めて質問します。また、19日の建設文教公企常任委員会には、「指定管理者導入」の議案が審査されます。ぜひ、傍聴においでください。(本会議場・一般質問は映像配信されます)

### 説明求め「出前講座」

閉鎖方針を知った市民の方がびびくり。どうなっているのか、と市に説明を求める「出前講座」を計画。5月に北陵、牧の台、東谷公民館で「仮称『川西市立総合医療センター構想(案)』について」をテーマに「出前講座」を開催。私も参加しました。参加者は、「ピラで知った」という方達が3か所で約120人。

### 176億円は借金で

出前講座では、作田哲也総合政策部行政経営室長が説明。市立川西病院(250床)を閉鎖する一方で川西能勢口・キセラ川西医療ゾーンに400床の新病院と山下駅前に北部急病センター(内科・小児科・整形外科)を建設し、管理運営は指定管理者(民間病院)に委託すること。

「病院がなくなればまちづくりがならず、ゴーストタウンになる」「一刻を争う救急車で運ばれる病院が遠くなるのは困る」「患者だけでなく、家族の負担(時間・交通費)も考えるべき」「パブリックコメントや市民の声を聴いていない」「市が説明会をしないのはおかしい」などと発言。川西病院が34年間、地域医療の拠点、市民の命を守る砦としてがんばってきたことへの信頼や感謝の声と共に、その病院がなくなることへの不安、憤り、怒りの声や要望、意見が共通して出されました。

### 市民後回し許せない!

市は、市民の命にかかわる大問題にも関わらず、6月議会で「指定管理者」導入の条例改定を行い、即「指定管理者」を公募・決定するとしています。

「政策医療分」のための交付金約3億円(年間)は全額指定制管理料として管理者に支払

○指定管理者制度…公の施設の管理を市が指定した者に代行させる制度。施設管理の必要経費は、市が指定管理者に委託料として支払う。委託料は市と指定管理者の協議で決定。

○1次、2次、3次救急医療  
1次=外来で対応、2次=入院治療や手術に対応、3次=一刻を争う重篤者に対応

○利用料金制…施設の使用料等は、指定管理者の収入に。指定管理者は、市からの委託料と使用料(診療報酬)等の収入で施設を管理する。

### 救急搬送928件

現在、川西病院(2次救急病院)は、1日平均で入院195人(入院稼働率83.4%)、外来454人。(表参照)

2016(平成28年)年、市内の救急搬送件数は、512件。うち川西病院への搬送は928件(18.2%)。これだけの需要を、診察室4つの1次救急対応の山下・北部急病センターで補いきれないこと、市民の不安払拭にならないことは明らかです。

### 病床163床激減

新しい病院「キセラ川西センター(400床)」は、第1協立病院(313床)の移転が有力視されています。とすれば、ベッド数は、現在の協立313床+市立病院250床から400床に激減します。また、受診には紹介状が必要であることも明らかになりました。

問題です。





# 命、最優先の市政を!

## 汚染土壌対策は?

13年度、市が約7億円を補助し、整備費用 176億円を全額市債で賄いま 助し黒字でした(一般会計 463 億円の1.5%)。現在約10億 円が、30年間の利子を含める の補助は、一般会計545億円の 227億円。ここには今後必要 1.83%。その10億円のうち政 となる汚染土壌・地中構造物 策医療交付金(2億5000万円) 対策費用は含まれていませ は後日国から交付されます。 市全体からみれば十分補える はずです。

## 管理料増加の危惧も

市が国から受け取る年約 3億円(政策医療への交付 金は、指定管理料として支払 われますが、今後、指定管理者 金の)は、指定管理料として支払 手術ができる2次救急病院 との契約いかんで管理料は増 えていくでしょう。

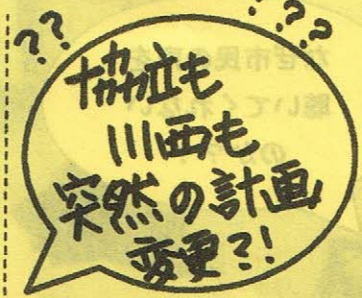
## 持続は市の役割・責務

その上、医師・看護師・医療 技術者など職員280人の退職 転、ベッド数削減はまちづく に伴う一般会計の負担も増え るなど、財政的にもリスクの 大きい今回の計画を拙速に決 める必要は全くありません。 市立川西病院は、2001(平成

## 一般会計から補助可能

市立川西病院は、2001(平成

よう。



## 当初計画でやればよい

法人は、「地域ケアに貢献。CT・MRIなど最新医療機器をはじめ、高度急性期医療体制・24時間救急対応」、低炭素のまちづくりでは「CASBEE Aランク」取得や省エネ推進委員会の設置」を提案して いました。 したがって、選定委員会で評価された通り296床の病院を法人の計画・予定通り「移転・開設」なされ ばいいのです。

## 「北部で建て替え」を

川西市は、2015(平成27)年5月に発表した「経営健全化計画」で北部での建て替えや3町の協力・連携など市民に示した計画通り進めるべきです。 突然、協和会から協力依頼の文書が届いたからと、176億円の借金をして土地・建物を整備し、「指定管理者制度導入」で、管理・運営はすべて民間に任せるなど必要ありません。 構想(案)は見直し、撤回すべきです。



多治見市民病院指定管理者制度 視察 川西市議会建設文教公企常任委員会は5月24日、岐阜県多治見市の市民病院の指定管理者制度について視察しました。

## 土地売却で契約

昨年12月、医療法人協和会から市に「…の協力依頼」の要請があり、これを機に、川西病院の閉鎖、指定管理方式などの新方針・構想(案)が急きよ提案されました。

しかし、協和会は、2015(平成27)年7月に、キセラ川西医療ゾーンに「移転または開設」を条件に応募し、同10月に決定、市と土地の契約をむすびました。

その後、市は、「まちづくり調査特別委員会(2016・平成28年9月)でも、法人と補償契約のメドがたったことや入金の方などについて報告、今年度の予算委員会でも今年度中に法人から入金があるとの説明を繰り返していました。

## なぜ、協和会の「協力依頼」で方針転換したのか?

また、指定管理者に移籍する職員に対して「給料差額を3年間補償」する ための財源は市長はじめ 職員給料の減額で対応。 職種転換で市役所勤務 務者が増えたことで「新 規職員の採用」に影響が 出たという報告。(異動 後、退職された方も居ら れるそうです)

また、指定管理者に移籍する職員に対して「給料差額を3年間補償」する ための財源は市長はじめ 職員給料の減額で対応。 職種転換で市役所勤務 務者が増えたことで「新 規職員の採用」に影響が 出たという報告。(異動 後、退職された方も居ら れるそうです)

2016(平成28)年度実績 入院127人(病床稼働率 60%)・外来286人。現在、 市内救急搬送の約3割 を受け入れています。 3分の1しか移籍せず 当時勤務されていた医 師14人、看護師・助産師、 医療技術者など職員116 人、計130人の市職員のう ち、医師6人、職員50 人、計56人は、指定管理 者へ移籍。職員32人は職 種転換で市役所へ異動。 医師8人、職員34人は、 その他に移っておられま す。

多治見市は、2012(平成24) 年に指定管理者制度で隣接地 に新病院(250床)を開院した もの、医療スタッフの不足 から136床でスタート。現在 212 床で運用されています。 多治見市の人口は11万 2145 人。市立病院(昭和49年建設) は、3次救急医療を担う県立 多治見病院の約1kmの至近距 離に立地。国の制度改悪や市 の行革によって、市立病院は 病床稼働率が39.5%まで落ち込 んでいましたが、存続するこ とを決め、新病院建設となり ました。

## 財政が危ないのは市本体でしょ?!

この間、「たんぼぼだより」でお伝えしている ように、市立川西病院の経営は大変です。 しかし、病院の努力で医師や看護師の確保が でき、経営健全化団体として、2020(平成32) 年までの健全化計画がやっと本格軌道にのっ た処。「行く度に病院がよくなっている」と意見・感想が寄せられるのも当然です。

病院の40億円・借金と毎年10億円の補助金 (2億5000万円は交付金)を「集中攻撃」、予 算委員会にもかけず、計画も無視。突然176億 円の100%市債発行、20年間の指定管理委託を 市民に知らせないまま拙速に突き進むことに 私は、大きな違和感・恐ろしさを感じています。

国の「改革」が痛手 国の医療制度の改革、自 治体独自の行財政改革の嵐 が全国の公立病院に大きな 痛手・禍根をもたらしたこ と。今回の国がさらに押し 進める「新改革プラン」の 方向性・財源のしぼりが、 住民の実態や声・願いを無 視して突き進んでいること に憤りを感じた視察でし た。

市と指定管理者との関係 市と指定管理者との関係 には、「利用料金制導入。民 間経営なので、経営に対し てはモノが言えない。人件 費やバランスシートなども 同じ。毎月の例月監査はあ るが、予算委員会での公的医 療への資金投入のところを 審査いただく。」とのこと。

予算委員会で、市の市債残高は今年度末 711億円(市民1人当り45万円)、基金残 高は20億円(同12000円)を下回る予定で す。財政が厳しいからとわずかな「高齢者交 通費補助」を廃止。人口減少だからと壊さな くて良い幼稚園・保育所を解体、高額の認定 こども園をドンドン建設予定。第3セクタ

一への15億円を超える償還猶予・無利子貸付 などは問題にもしません。このアンバランス を是正、市民と共に築き上げてきた財産であ る全ての公共施設を有効に活用、財政の立て 直しと市民が望む施策実現こそが、今、川西 市役所としてやるべきことではないでしょう か。 黒豆の声・編集後記